

富士・東部地域教育の様々な活動、情報等を掲載し、地域教育の「横の連携」と「縦の接続」を目指す富士・東部教育事務所が発行する情報紙です。

◆ しなやかな心の育成プロジェクト

『家読（うちどく）』をはじめましょう！

県教育委員会では、「しなやかな心の育成プロジェクト」を推進しています。

その一環として、社会教育課では、「心をはぐくむ『あいうえお』」（大人としての大切な心がけを表した標語）及び「家読（うちどく）」（家庭での家族間の読書）の普及・啓発に取り組んでいます。子どもたちの「しなやかな心」をはぐくむために、地域みんなが手をつなぎ子どもを見守りましょう。各家庭では、読書をきっかけに家族のコミュニケーションを深める「家読（うちどく）」をはじめましょう。詳しくは、下記に御連絡いただくか、県のホームページから「しなやかな心」で検索していただき、内容を御覧ください。

てをつなぎ こころを ゆたかに しなやかに

プロジェクト推進の標語 飯野杏梨さん(竜王小学校)

4,610作品の応募の中から最優秀賞に選ばれました。

【連絡先】 山梨県教育庁社会教育課 成人・家庭教育担当
電 話 055-223-1773(直通) F A X 055-223-1775

◆ [谷村工業高校で国研の教育課程研究指定校事業の成果報告会]

11月27日(火)、谷村工業高校(手塚芳一校長)では、国立教育政策研究所教育課程研究センターから平成23～24年度教育課程指定校事業の委託を受け、研究主題を「山梨県富士北麓・東部の地域産業を担う人材育成 ～夢や希望を持って学べる次世代工業高校の教育課程の構築～」に設定し、2年間取り組んできた研究の成果報告会が開催されました。成果報告会に先立ち、午前中にはこの事業に関する「実習・課題研究」等を中心とした参観授業が行われました。午後の成果報告会には、文部科学省の調査官、都留文科大学の副学長をはじめ、高校教育課長等の教育行政の方々、学校関係者、市町村の行政担当者、企業関係者合わせて約50名の参加がありました。成果報告会では、事業概要の説明、事業に関する各学科の科目担当者からの研究内容及び成果と課題の総括について報告がありました。いずれの報告内容も、教育課程指定校ならではの特色ある教育活動を実践しているものでした。

◆ [第4回南都留支部特別支援教育研究会・第2回学習会]

11月29日(木)、富士吉田市立吉田中学校で第4回南都留支部特別支援教育研究会・第2回学習会が行われました。南都留の小・中学校の特別支援学級、特別支援教育に係わる先生方約50名余りが参加しました。研究会後の学習会が、『自閉症・発達障害 自閉症傾向のある子どもの「こだわり」の指導について』と『体育・運動動作 特別な支援が必要な子どもの体育指導について(なわとび)』の2グループに分かれて行われました。それぞれのグループでは、ふじぎくから支援学校の先生方から実例を交えながら、日常の指導の中で子どもたちと接する際のポイントの説明、具体的な指導方法や個々の支援に応じた教材の提示等があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。特別な支援を必要とする子どもたちの自立や社会参加に向けては、一人ひとりの教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、学習上・生活上の困難を改善・克服するため、適切な指導や支援はもちろんのこと、学校内の支援体制の整備・充実をより一層図っていくことが重要であることを出席者は強く感じた学習会でした。



◆ [上野原高校で県高等学校進路指導（キャリア教育）研究指定校中間報告会]

12月4日（火）、上野原高校（清水 澄校長）では、山梨県教育委員会より平成24～25年度山梨県高等学校進路指導研究指定校事業の委託を受け、キャリア教育の実践研究を主に進めており、その取り組みの中間報告会が開かれました。中間報告会に先立ち、山梨大学教育人間科学部教授の寺崎弘昭氏をお招きし、「キャリア教育の基本的前提」と題した講演が行われました。講演の後の報告会では、高校教育課の指導主事をはじめとする教育行政の方々、学校関係者の出席のもと、進路指導主事から「上野原市役所におけるインターンシップ」、国語科から「双方向コミュニケーションを活用した授業」、英語科から「教科横断型授業〔英語科と理科〕」の研究報告がありました。いずれの報告内容も、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探求的な学習、生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした特色ある教育活動を実践しているものでした。

◆ [明日の風 「小林雅英野球教室」開催]

12月8日（土）、今年度で12回を迎える小林雅英コーチの野球教室が、大月市営野球場で開催されました。小林雅英コーチは地元の大月市真木の出身で、1998年にドラフト1位で千葉ロッテに入団し、03年に連続セーブポイント日本記録樹立、翌年のアテネオリンピック日本代表、07年には7年連続20セーブを達成、08年には大リーグのインディアンスに入団して『ドリームス カムトゥルー（夢の実現）』を見事に果たしました。インディアンスでは、中継ぎ抑えとして活躍し（投球回数56回4勝5敗6セーブ）、09年にインディアンス退団後に巨人軍入団、11年オリックスに移籍、その年の11月1日に引退し、現在オリックスのピッチングコーチとして活躍しています。

この野球教室は、地域教育の「明日の風」（北都留地域教育推進連絡協議会）が主催し、大月市や上野原市のスポーツ少年団指導者協議会（野球部会）、小林投手の同級生を中心とする「応援団」のメンバー、そして地元への恩返しにと、小林コーチの全面的な協力をいただいている行事です。

会場には、北都留地域のスポ少の野球チームや中学校の野球部、保護者等約280名が集まりました。開会式後の野球教室（実技指導）では、3グループに分かれて一人ひとりが小林コーチから丁寧に投球フォームをチェックしてもらいました。交流会の「小林コーチQ&A」と「小林コーチとじゃんけんゲーム」では、くじで当たった小学生・中学生が質問をして、小林コーチからの好意により直筆のサイン入り色紙やボール等をもらい、子どもたちは大喜びでした。

その後、スタッフ・子どもたちとの記念撮影が行われ、子どもたち、保護者、関係者は、小林ピッチングコーチの今後の益々の活躍を期待しながら帰路につきました。



◆ [第2回 南都留教育相談ネットワーク会議]

12月12日（水）、今年度2回目となる富士・東部教育事務所管内の教育相談に携わる方々の「教育相談ネットワーク会議」が、南都留合同庁舎で開催されました。この会議は、様々な事例研究をしながら、問題を抱える子ども、家庭を支援するために協力・連携していくことを目指しています。

今回も関係団体から「富士吉田市の自立支援事業の概要」、「富士・東部保健福祉事務所 健康支援課業務について」、「学校間の引き継ぎから見てきた連携の課題について～富士北麓地区連携協議会の取り組みから～」、「不登校の現状について」等の事例報告がされ、その後質疑応答による研究協議が熱心に行われました。それぞれが抱えている課題等の情報交換、具体的な事例研究の中から、地域をはじめ各機関のネットワークの必要性を再確認する有意義な会議となりました。

